

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32404

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K16316

研究課題名（和文）要介護者への口腔ケアを修得させる介護マネキンと実習プログラムの開発・活用・評価

研究課題名（英文）Development, utilization, evaluation of a care simulator and the training program to acquire a technique of the oral care of the people requiring long-term care

研究代表者

大塚 紘未 (Otsuka, Hiromi)

明海大学・保健医療学部・講師

研究者番号：70599266

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、要介護者の口腔内および全身を再現した介護マネキンを用いて、要介護者への口腔ケアの技能を修得するための実習プログラムを開発した。

介護マネキンを用いて作製した動画教材は、学生に具体的な口腔ケアの方法を理解させるために有効であった。また、実習ではマネキン実習によってしか実施できない内容と、人を相手にした相互実習でしか理解できない内容があることがわかり、マネキン実習のみならず相互実習も組み合わせることで、具体的な口腔のケアの方法や注意点等の理解が深まることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

要介護者の口腔のケアに関する教育は、近年、多くの歯科衛生士養成機関で実施されている。しかし、その教育方法や教育効果についての報告は多くない。

要介護者を想定した口腔のケアを修得できる実習プログラムの開発により、これまで見学が主であった要介護者への口腔のケア実習において、現場実習開始前にその手技修得が可能になり、学生に実際の現場で処置を行わせることも可能になるなど、大きな教育効果が期待できる。また、歯科衛生士養成教育のみならず、要介護者の口腔のケアにかかわる多くの人々の教育に広く活用されることも期待できる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I developed a training program to acquire a skill of the oral care to a people requiring long-term care using the whole-body-type simulator with highly realistic oral cavity structures of older people.

From the original videos of the oral care that a teacher made using a simulator, the students were able to understand a method of the concrete oral care. Training includes the contents that it is the best to train in the contents that the training with the simulator is the best and the mutual training of the students. Therefore it was revealed that the understanding of the students deepened by performing in combination the training with the simulator and the mutual training of the students.

研究分野：歯科衛生学

キーワード：教材開発 マネキン 動画教材 口腔のケア 実習

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国の高齢化は急速に進行し、それに伴い要介護高齢者人口も増加傾向にある。要介護者の口腔内は、口腔機能の低下や清掃状態の悪化により、様々な口腔疾患に罹患するリスクが高まる。さらに誤嚥性肺炎の発症等、全身状態にも悪影響を及ぼすことが報告されており、要介護者の口腔内状態を維持・改善することは、口腔や全身の健康のみならず、生活の質向上の観点からも非常に重要である。要介護者の口腔内状態の維持・改善には、歯科衛生士等の専門職による専門的口腔ケアが欠かせない。歯科衛生士養成教育においても、その手技の修得は急務であるが、要介護者は様々な全身疾患を有していることや、誤嚥を引き起こす危険性が高い状態にある者も多いことから、学生が事前の訓練なく要介護者に対し口腔ケアを実施することは非常に困難であり、実習は見学のみで留まるのが現状である。現在、株式会社ニッシンから、高齢者の特徴的な口腔内状態を再現し、さらに全身の体型も再現した介護マネキンが販売されている。本マネキンは実際のベッドサイドでの口腔ケアを想定したより実践的な実習を可能にするものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、介護マネキンを用いて要介護者への口腔ケアの技能を修得するための実習プログラムを開発することである。

本介護マネキンを用いた実習プログラムを考案し、学生実習に導入し、学生から評価を得ることと、これらが要介護者への口腔ケアの技能修得に有効であるか否かを明らかにした。

3. 研究の方法

(1) 動画教材の作製

事前調査による学生からの評価を参考に、介護マネキンを用いた要介護者への口腔ケアの手技を学ぶための動画教材を作製した。

(2) 実習プログラムの立案

作製した動画教材を用いた実習プログラムを立案した。実習プログラムは、動画教材の視聴、動画内容に沿った実習の実施（相互実習を含む）とした。

(3) 実習プログラムの実施と評価

歯科衛生士養成機関の学生 38 名を対象に、立案した実習プログラムを実施した。本実習プログラムの中では、動画教材に関する評価および実習プログラムに関する評価を得た。

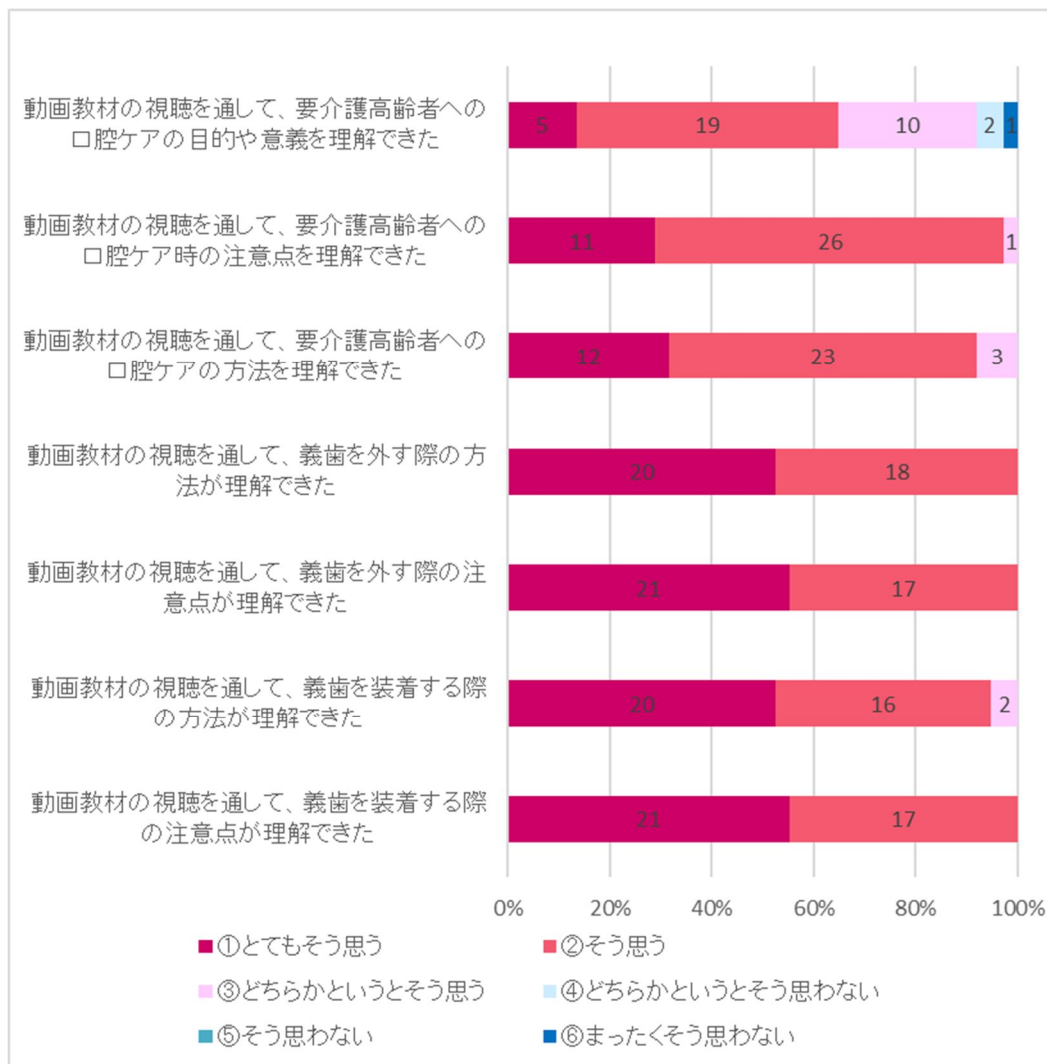
(4) 実習プログラムの修正と完成

評価結果より、介護マネキンおよび動画教材を用いた効果的な学習方法を検討し、要介護者への口腔ケアの技能修得へ向けた一連の実習プログラムを開発した。

4. 研究成果

本実習プログラムに関して、対象者 38 名より得た評価結果を以下に示す。

(1) 動画教材視聴後の理解度について



作製した動画教材の視聴によって、大多数の学生が要介護高齢者への口腔ケアについて理解できたと回答した。

(2)動画教材の良かった点・改善点

動画教材の良かった点について、「ゆっくりと丁寧であった」「操作方法がよく映っていて見やすかった」「字幕がありわかりやすかった」「動かし方や歯ブラシの角度がわかりやすかった」「一連の流れがわかった」「良い例・悪い例の比較がわかりやすかった」「注意点がわかりやすかった」などの回答が得られた。

動画教材の改善点について、「字幕を長い時間表示してほしい」「音声があるとわかりやすい」「マネキンではなく実際の臨床での状況がわかるとよい」などの回答が得られた。

(3)実習プログラムに対する評価

本実習プログラムに対する学生の評価より、実習の中で相互実習を行うことが重要であることが示された。具体的な理由として、患者役を通して理解できたことでは「清掃用具の適切な水分量について様々なパターンを試すことで感覚的に理解できた」「適切な力加減が理解できた」「ケアを受ける側として何が心地よくて、何が不快であるのかが理解できた」などの回答が得られた。また、術者役を通して理解できたこととして「患者さんへの配慮について学べた」「実際の力加減が理解できた」「術者の姿勢の取り方が理解できた」「患者さんの頭の固定が大切であることがわかった」などの回答が得られた。

実習の進行方法に対する具体的な意見として、「動画教材で学んでから実習を行うという流れはとてもやりやすかった」「初めて使用する用具の使い方も動画教材で理解できたため、スムーズに使用できた」「動画教材を見ながらそのまま実習できる流れでもよい」などの回答が得られた。

(4)まとめ

本実習プログラムを通して、学生は要介護高齢者の口腔のケアに関して多くの知識と技術を

修得できたことがわかった。特に動画教材は多くの学生に口腔のケアの詳細な方法を理解させるために有効であることが伺えた。また、実習ではマネキン実習によってしか実施できない内容と、人を相手にした相互実習でしか理解できない内容があることがわかり、マネキン実習のみならず相互実習も組み合わせることで、具体的な方法や注意点等の理解が深まること
がわかった。

これらの結果より、次の改善を実施することで、実習プログラムを完成させることができた。

動画教材の改良：字幕の表示時間の調整、音声解説

実習内容の整理

介護マネキン実習：義歯の着脱や孤立歯・補綴装置等のケア、患者の姿勢の調整

相互実習：清掃用具の水分量の調節、ケアの際の力加減、様々な清掃用具の使用体験

実習の進行方法：動画教材の視聴 介護マネキンを用いた実習 相互実習(実習内容ごとに該当の動画教材を視聴し、その都度実習を実施する。)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Otsuka Hiromi, Kondo Keiko, Ohara Yuki, Yasuda Masayo, Kishimoto Natsuki, Sunaga Masayo, Endo Keiko, Arakawa Shinichi, Kinoshita Atsuhiko, Shinada Kayoko	4. 巻 80
2. 論文標題 An Inter- and Intraprofessional Education Program in Which Dental Hygiene Students Instruct Medical and Dental Students	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Dental Education	6. 最初と最後の頁 1062 ~ 1070
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/j.0022-0337.2016.80.9.tb06188.x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------